愛宕句集 元禄 下

中村俊定文庫
文庫 18
616
2

蓼太句集秋之部　二編

立秋

先刻月見の頃より雨降りて今宵の秋
夕雲を[illegible]くれて今宵の秋
二之尺多川秋見せり女郎花
秋の月やもの思ふ子の風呂より
蜻蛉とりの三日月は光ふ家
初河内やまき秋を見送ハ元祖

中村俊定文庫

七夕

七夕やこの夜月乃来り否
加茂川の紅葉の橋ハ色出し

寄庵新成

桃花ゝ九太郎しく星もなし

所戸川辺よりふかやうく
星逢やゆ川銀出ゝ来せん

題名所

新宅地より家内星の一枝川
住吉駅泊

清今ゝ御もゝ也清水寺

同七月七日

鞍ゝ二度のあゝ御ハ唐の橋

魂祭

清水ゝ源川ゝ寄庵を訪ひし
又母の魂迎しゝ
迎火やゝ風ゝ打戸のひゝ乃

起くの分茶碗墓糸
すいき（芋蕷）世戸ゆく魂まつ、
むらひ大ヤ物尉ヶ門の捨小舟
世ちしや盆地灯を夏の後

盆の月

ちもの海ヤ門て繁ゆ盆の月
ちく良板是ちちちを迄ハ
盆の月いさ名月を見くを見、

唐崎

星人の意ちく新角を盆清月

燈籠

月ひとつ姫ちゃ言魂籠、
地籠ヤ灯ハ灯ちく唐ゆ、

虫

虫賣ち秋ちて行新ゑ郎、
蟲も行虫ハ多ち虫の夢

世の外をかくもとめて俗世の外
松むしやみとりの塚をもとりかへ、
畔の好きに園をよ新もの色
いきて只 鉢ハ松をつし世外声

李院汾庭と陽田吟行

神祇の森のあるく世すなり多能、

一日庵

世の事ヒ菴ハ国と外烟も外

芭蕉翁墓の墓塚集より句を元禄
墓世をとも翁 意 と好く世 ふ
ゆをとい世も
みの世外二度乃好きや只意、

文墨瀆

柳塚のいとうち月雪の外意
ゆくく叶意のいとも多元せ孔
と衆ふりく清る文巻に漬しく

諦好の見を香ヒまもく苔

[illegible]

病後

[illegible]

送越既白法師

蟬蛉を孫ハあまーかに[illegible]

秋蟬　晴蛉

[illegible]

鶴岡弟宮懐旧

文治二年四月八日頼朝卿英御臺所北
御社に詣給ひ静女を回廊に召て舞曲
をなさしめ給ふ其様殊もまの河
[illegible]

蟬や声つ静ハ[illegible]秋の蝉

ものあはれ[illegible]

蟬蛉や引のこ[illegible]水の上

朝顔

野辺や日数[illegible]

あらたまの年のたちかへるを顧て、

暮ぬ門松の内のひつ兎和と、

ゆくとしの涙ぬぐはぬ袖の上、

悼八十男

ちるぬくやはるもあるを夕顔

女郎花

武蔵野や茅も分るる女郎花、

ちるぬくも棄置るる女郎花、

住ぬ故喰ぬる世をしらぬ人

秋艸雅

蜻蛉よ何を思ひ人あり小菜ハ葉ハ巻

麻酒の小見門よ渡る船中秀夜之詠

ゆ振む蒙の春ゆ山ゆ

菖蒲の隠士ゆ第を尋ひ七月七日

七種の野を尋ぬ七十七七十一ゆ

い行ゆ賀一中ゆ振ぬ人の雪

第法雪ふりあるしや萩の花

新国十郎社

義士十騎吾忠兄の髮を奪く一社建

ふる死の躑躅一萩花嘉

糸萩のこぼれ花ふるこぼれ花

六歌仙賛

今ひとも秋七種乃巻子誰

ねつうぬ老ハ毋者ハ雑隈花

不動尊納

二童子のほゝもひとふ彩沃花

月夜やぬきを笠乃色

涼しさの戸桔梗の嘉ハ

水ふる妹ゝ糸仇ハ晃よ者、

ふるゝと富士かゝ元ゝ初嵐

鶏頭やとゝ小風ふる家ひ月

ぬるゝ者も義椒嶮といふ通ゝ糸

[illegible]の西日冷―夢―西[illegible]

伊勢二日坊

[illegible]戸市[illegible]

[illegible]の巻物もとゝの芭蕉[illegible]

七堂[illegible]外よ大枝の[illegible]

花生の賀

[illegible]より拾ひ[illegible]

芭蕉ハ[illegible]入りの[illegible]

[illegible]ハ

[illegible]人の風流を[illegible]

花生[illegible]

秋風

秋風や長刀[illegible]車

[illegible]の[illegible]の風

[illegible]

遠遠[illegible]の[illegible]戸秋の[illegible]

[illegible]海

旅[illegible]八[illegible]海[illegible]

八朔

八朔や[illegible]庵[illegible]小百姓

魏

[illegible]雑[illegible]一尺の[illegible]銭

木賊

[illegible]男[illegible]木賊刈

月

東都

武蔵[illegible]

名月や[illegible]三ツあり八京江戸難波

名月や[illegible]下秋貸次[illegible]

明月や撰集抄を漬[illegible]酒

[illegible]八白髪[illegible]

鵬[illegible]頃[illegible]の塩[illegible]の月

[illegible]人[illegible]の月

雲汐や月の中行帆に乗る船

名月乃沉めき汐の余波り

明月や嵐衣津乃八景の山

なるや淵る水中楽清めり

西行の恋見けり西東にふく月

明月や老よ康乃思ひ銀らん

貢より東乃新席八丈の風宜予
菊廊を訪ひそれ葉に道発遠来
落句ひくらの頭基の句乃予の好

ありしすゝ川に棹ゆく行ける

けりそ見茶硯かを過行の月

酒の名清七さひあり新月見ける

更科

ひとつ川津ゝ月見て渡を国毎に

鶴岡社頭

新月や青橋乃影深し

鎌倉覧古

月もすむ東路よ越えて高
[illegible]
鐘
[illegible]や鐘ムの歳暮れぬ
放生会
放つまよ月の澄まで奥と乃
[illegible]明も又新月乃[illegible]
[illegible]者の月乃[illegible]
三河坊[illegible]

[illegible]乃[illegible]
[illegible]
鎌倉阿佛房陳
尼君者歳[illegible]浪の月
岩戸流留士更亭
簾まく童子[illegible]月と留士
丹後
[illegible]の月の都を崖は[illegible]
志賀旧都古尾硬鈴

硯を見て乃ち詩を賦す

六祖贊

月の底清かるハ如何なる月か

遊女画賛

[illegible]乃あり英しや秋の月

十六夜や月[illegible]の雲門[illegible]

一日恵の主義求光宿禅を義[illegible]

三十余年文を[illegible]武[illegible]

[illegible]かく[illegible]唯[illegible]

万遍の外他[illegible]此[illegible]月二日

天命[illegible]八十有余年を[illegible]

十万億裏の大隠士と[illegible]

妙子の時[illegible]

[illegible]

陽遠[illegible]

嘉治君[illegible]長月の月[illegible]

小同光の[illegible]

追慕の句を屏風にしたる傘の
はしにより芭蕉翁と小先思ひあり
西行の庵もあり巻の庭と芭蕉
翁も山寺の風景をよろこびやされ
しより関の東八橋又は志ひきれと
きに日向の国へ中巻次

若ゝ見しら原と向ふ岩瀬ゝ

深夜浙三又口

流志行　言庵ゝ頼元水の月

屏

行燈に入る月の輝く蔵ゝ屏
蔵ゝ屏よりくひ蛍の厂
芋机来ゝ焼やきゝ乙津屏
一説京屏

一覚の夢ゝ繻子ゝ天津屏

旅屏

関西ゝ屏ゝ七彩ゝ小田の厂

菊

白菊乃香を中くに置て
年〳〵年菊又たしらくの花
百色ハ白ハぬ菊ハあらぬ
一北亭菊見

志〳〵菊よあるゝの繁よりを見
素九子七十須

出〳〵仙書ゝを幾傍頃

漁村の冨家ゝく
奥を鈎酒ハ砂ハ子菊の測
秋嘗

杖曳〳〵菊乃ゝ秋乃夕〳〵邨
色〳〵〳〵く帆とゝ元果ハ秋の嘗
加〳〵れの三線深〳〵地れく連
東海

眸よゝ秋国の歩ゝあゝの嘗

牡丹寺

上人ハいづこに居ますか秋の暮

獸青海山泊鷺

灣面を亀移す松や梅の雪

梔子のいとゆかしや庭の秋

后月

年ずれを小さきものゝ後の月

登滿寺月を見ずして名残かな

野分

牛の尾ばかり長く陸奥の秋

秋宮

洗濯ゝ和のきこえる秋の宮

旅行

山坂や昼ハ忘れて夜ぞ恋

長夜

長き秋や孫を乳母の渡いろ

寂物語

うゑ木の中に松の風吹くなり

餞雪成熱阿波

うの這ふあとあらしの八幡
の眺望すべし

船ゆるも一枝残る夕顔 石鳴子

鳴子 葉山子

我為に行くは月の明る縄

一枝残る夕顔引よせる縄かな
行足ハ雨つくるや明る引、
鳴るうしろ我れ小歌系
冥眼を納れよせの景山子、

寂

萩よ蔭萩よさびるや寂の夢
寂の苔や清しくと松の風
松山や養ふ中に寂れ元

康菊やうれしく〳〵渡親父
ひよ深くと皆病悲の男康ぐ
狼よ迄や絶あん麗乃静
夏淡月并農ふ康の光かな

木枯　お羽岡

うら枯や虫に横ふ寂上川

泉岳寺

言形嫉の骨芝深る砌かな

紅葉　上野

金厳ふ秋く〳〵冷まお紫哉

雑秋

七月二日不騫公御發駕

八朔の花も行きし其後梅

奉送天府公難波行

川しくや君か為にも朝日照

六浦

幸さき世と共にしむ業や六道恒
酒泉松浦園牛をいきとうく
武中なる酒さく貴なる泉こうの
格別多田神社
秋もまた武つもりや松の濃武者
姿
一ともに羅漢我仲寺なる義の木像
山沙といふものの長かるを結しく
きくく京武より深沙あるを

今のもの武蔵菴より遷りて
武眼小尾をなつかしし唐の秋
田家 二句
蛍嗚呼 猶も肥えし采屋の塚
梨藤もて 蠟(ウニカ) 交るあり 訪
山行
清水くむ日和 稀しの山路
懐旧

新蕎麦小亡友浩を悼む

唐人の蕎麦の詩年々つきもなく
画よりいなかの人とも名を付く貧
ともとも人の需よ意一言

沙奠湯の中韓信いまし浩を哀

悼吐月

我中為仔をもるを見くるを

光明寺

那夕中白桂音年薫沈

暮秋

山形中見を紅葉の一茶を
ゆく蛙小叡雅れ山を哀れ

蕉太句集冬之部　二編

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後[illegible]

富士[illegible]雪や華乃一叶哉

中川園

時雨行[illegible]や[illegible]華[illegible]

口切

煙[illegible]や嵯峨大二日[illegible]

三餘亭　十月朔日

祖翁乃三章を家ゝあく老ゝ望医

奥行

おゝ[illegible]

口切や　梅培朝小大根汁

達磨忌　十夜　法会講　反魂

達磨忌や牛の尾掃く古牛房

達磨忌や京の夕暮の暮の皆

線香の焚かれの長十夜哉

唐金の（合佛）沉む十夜哉

雲霧の夜を西へ行く十夜

唐傘の人を夜乃法会哉

法会講の法華経のむらさき

あり幸の法華をかりて

叶烏帽子と誉る法会講

芭蕉忌

芭蕉忌や上を嘘を仕る梅花

生のうあ宋木像尼仏世の去

夜講

忘れ法講麻皮摺敷き色う

[illegible]

小春

行秋の餞[illegible]脱[illegible]小春[illegible]

夜風[illegible]皮[illegible]小春[illegible]

菊貫之[illegible]

[illegible]の母[illegible]神の旅

冬籠

[illegible]の[illegible]冬[illegible]

雲影

船[illegible]

雲猶

茅二升小萩[illegible]の子[illegible]

麦蒔　大根　蕎

麦蒔[illegible]蒔小[illegible]

瀬戸

麦蒔[illegible]

奈味哥の宿志あ[illegible]大根川
矢軍の海ゟ[illegible]乃茂[illegible]
関口
高人ゟ[illegible]ゟ[illegible]
枯歸
[illegible]小浮世の[illegible]枯[illegible]原
風
[illegible]

風ゟ行[illegible]ゟ[illegible]帆[illegible]
佐[illegible]中山
[illegible]の[illegible]ゟ[illegible]
東海禪林經堂
木枯ゟ一字不説の枯[illegible]
上總上京淺間
枯[illegible]ゟ[illegible]上総山
真間堺禪塚

落椎の拾ひ残しし松の風

志賀寺

数行紫ふるもうもれ唯一樹

昼さくく門のあるじや我ひとり

紫藤ちるれば老木ちり紅葉

帰花　山茶花

沙弥なる老木ひとり帰藤

山茶花やー二ひらの落残

水仙

水仙の根よ白玉ぬれ八重

ちるや一つ遠う骨ばかり

顔見せ

顔見せもつれて老の涙見せ

白髪ちるや古寺見物を沢庵

信濃の国戸人を馬もて無住の行

古市門柳延寿の場

三日頃や喜和梅乃角雙

霜

宝寿院室一枚　年頃一枚

行間と奥見時と翁の参

椎茸や上京まれハ矢脊の表

清人ハ義和田ニや霜乃月

深川志江町ニ住ス

いさま舟今庵まと表の色

島田宗長庵

柱さへ連ぶ江綱一雲の菴

正中山

大寺小書　道長庚表　祥如

東叡

准后の言葉伝奉ル　歌　世行

秦文子を送る

遥〳〵も玉敷霜ハ光哉

紙衣

[illegible]紙衣[illegible]
[illegible]
突兀と大入道の帝[illegible]
身[illegible]川の落[illegible]紙衾、

夷光義病後之賀

横[illegible]む嬢[illegible]梅[illegible]

松城の君[illegible]
信濃国へ[illegible]太初を送る

第八 枯女旅衆の横[illegible]

下総八幡

[illegible]市[illegible]
[illegible]人の面[illegible]
[illegible]

足[illegible]女[illegible]足袋を撰[illegible]

榾

上総可穂亭

榾の出る山[illegible]

貧交行

貧の望みよ恵のうみの糸を引く
撞つとく鐘木望じあるしおも
熨斗付けるものよ炭俵
堤火の中に咲く小の吉
うつろ大やかせハ庵よ鶴為彩
年家うつ須ヶ崎ヶ人相大桶

餓病乞児

泥石をかつぎ川よ雑く別ヶ邦

水鳥

うつ中ヶ中ヶ屋如友衆
あ〻うたに屋ハ群れ〻ヶ〻
雪絶て千ものかれ枝ヶ
堪うつ細江よ入ヶ小枝衆
鶯鶯ヶ唯ハ粉を如操ヶ如
三種よ組松島よ茂や浮桑島

鹿

勅奏のふかいもの春秋

神楽

秋神楽や歯の喰あはぬ音くすす

星〳〵乃新米ぬ米〳〵神ぬ

星神〳〵酒一樽のまひう邪

雪

雪よなれそを雲の裏と笠

雪よ成青竹の枝や花多川

揚木をかつしと雪をちぬ

振沼あり〳〵と光大遠〳〵雪乃上

秋行

滝撞とうを永のこゝろん秋九雪

行旅

雪の月やや立雄しそ杖〳〵行〳〵

統前春江勝遣雪霰館

行くすゑの雪の宿や庭に泳つる
をとろえに酒徒風人入つれ
きつひ来をとうるゝ時しろの雪は霜
反魂ものとうるゝ所雪はあるべし
大坂豊竹若大夫古稀の賀京形色紙
ちるゝ
太夫とゝは色や七国は松の雪
雪の芭蕉よ輪は月を画るよ
行まれは芭蕉よ浮ぬ月の雪

女達磨賛
達磨面壁二祖立雪断臂云弟子
心未安乞師安心磨云將心来爲
汝安祖云覓心了不可得磨云爲
汝心竟
雪ゝいはれ雪を持ゝ来
ゝ物花雪に対ゝ思ふ
蜆子和尚
芦海嵐

如くなる夕

夕雲流れ早く暖かく

宮会佛　鉢の紀　幸舞

白雲の中小舟あり宮会佛

いなづまの町を巡り宮会仏

夕顔の花八重咲く浦の宿

宮参り橋無き川あるなり

茶会喰

年寄りの丈婦老り茶くび

下駄ならう新妻茶喰

節季俳

長雪に出れば辻の松の廊下

煤掃

捻うなる庭の石多く煤はらひ

赤敷山のくやくなる

煤はらを吉祥園に忘れけり

[illegible]う考紙の紙を拾ひ集め
[illegible]すりて

蛛掃や庵に考紙の鍵も出し

旅行 二句

すの郷を離れて白帆を船
[illegible]掃部の爆も出
年の市

押あるく老を世界へ海老

癸卯松月廿日を出て庵の左右を
[illegible]れらしく今宵なる雷雨
庵より陸り多つる千住の躑山
を出て[illegible]を
[illegible]に[illegible]れも[illegible]
しき夏の[illegible]て秋庭掃
[illegible]

[illegible]て八火を[illegible]川
[illegible]
[illegible]に[illegible]一日暮

[illegible]年を[illegible]

衣配

深[illegible]利ゆゝし衣配

案暮

[illegible]又月の雪かゝる所走る

松風の遊よ立ちくゝ[illegible]

之日月のゝ細さよ年のゝし

[illegible]小梯 論[illegible]年雪

[illegible]は[illegible]の[illegible]

[illegible]紀生[illegible]牧[illegible]の暮

子毋[illegible]のゝ[illegible]

讀撰集抄

有[illegible]紀唖[illegible]し年の雪

[illegible]

之ワ輪[illegible]の[illegible]

唐糸[illegible]簾屋[illegible]の雪

[illegible]

閑居せい芝居[illegible]の暮

病[illegible]

二百六十餘日の涙汁付よ虎を[illegible]

枕灯ハ白ち猫寒[illegible]の闇、

賊布[illegible]の吐瀉[illegible]

大年[illegible]

日〻好日

一寸ち鈴也[illegible]右[illegible]

化[illegible]乃日数[illegible]古暦

[illegible]敏[illegible]右[illegible]

年内立春

[illegible]ゆ[illegible]の牛ち[illegible]

麻[illegible]の[illegible]朱[illegible]年の[illegible]

三芳師の孫孫思ひ立[illegible]

格を花の枝の中ゝの内
先ゝの庭あるゝに長小朱の
嵐の素袍見ゝく庭の中絵中
賛を色紙
庭まゝよ中見ゝう猫の赤ん
千人ゝを櫛中の格ゝみ 其角
名月四門小門来る郷から 義
今少し高ゝ見ゝ球 球 嵐雪

此角
洗濯せゝとあるゝ紙
味子百年 稲負島の海見
鈴鴻岩本院高楼
不二嶺ゝく文ゝ山ゝよあゝ

詠志波

浅草川を隅田川世俗に溝と称す

多賀谷今戸といふ所に別墅あり

近年此墅を離れて黄檗六十樹乃菊

盛り也 中古迄今たる菊屋滑稽者

風雅小松屋と久しき友にて八幡宮

却て遠の伐侵をなす月と雪にあるを

多しなを探こころを睦月の何免

陽田川の芦葉つたふ雁なきて
ちらくゝ雨を凌ぐ

茅ぶき和尚やゝ森の御ちゝ
かゝく世外の交り結び地ちゝ
そこに隣ち少ゝ乃庵を結ぶ生ゝ
八畳に一炉をひかゝ二方の障子去
ゝ　襖二枚を隔ゝ持仏堂形成ハ
秋の柏ゝもゝ不ハ

文房の奥ハ机文書筆硯ゝを床座
ゝ小動を知己門人訪来ゝ絶句ゝ
せん多の料ゝ又北窓ハ清井亜相の
君ゝ市ゝ書ゝて下し賜ゝ雪中庵の
三大字ゝいゝ庭名ハ京極江東ゝ
乞まいゝせ　庁言存大雅千秋猶一日
ゝいゝ新辭を世の変の板ゝ彫ゝ移ゝ
ゝ紫次ハ西のゝ江ゝ窓を彩

きゝ東江居士の書を需て泳陀寛雪
題字を請て遠流法波の移殖を賀し
親愛の情を述しもあり況や其
一時うれしきものゝこゝ今八倍と
なり不費して十倍を得たり
之を於て一生養生を七十あり
年を加へ年に壽に世の年に
生用其法あれハものゝ七孫のみ

川ハ銅ゆるとゝ有て屋ハ
ものかゝ八ハ朱沒刻甲子類ハ移
者を書て別庫に入しに物を突
糊黐に如且陳義田川其名高
ものまつ有して教鳥に以て
燒て物を造り有て屋ハ
ものの形古雅ものを造り又古瓷
器茶碗ハ京家の用物なり歩ものゝ之物

[illegible]
主あの[illegible]を[illegible]
乃[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]の雪[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃[illegible]

[illegible]川流を尾[illegible]
手賀の浦を[illegible]
[illegible]
宮の御[illegible]
稲[illegible]の宮[illegible]
[illegible]
庵ハ東南を後[illegible]
[illegible]ハ七橋の沿[illegible]

筑波ハ富士より西にそびえ湯田川の入江
を木毋寺ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月見ハ老をぬむ[illegible]
白髪の老を老杉古松欝[illegible]
[illegible]

[illegible]に帰雁もあり神社秋
境の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
長谷寺牛の御前弘福寺ハ浜牛福原の
閑墓ハ[illegible]勤行の鼓[illegible]旦暮日面佛
月面佛真林[illegible]
機を[illegible]之圖の[illegible]
[illegible]

俳諧すべて此の[illegible]秋葉乃法[illegible]
法[illegible]あるべき風流の業をなすべ
菊西太郎とゝ[illegible]ふ[illegible]
名のたゝしきを如[illegible]
はるゝ[illegible]
少べ免美に調して[illegible]
繁を[illegible]
[illegible]毎をつゝ[illegible]

[illegible]の塚[illegible]
なべて[illegible]

歳暮拙賞

味方西太郎四季句集

待乳山いにしへ[illegible]
いつゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

実に世に稀なる絶景也
あるべき事也中ゆるに迫て誠大怒涛高
岸にうちあたり風に吹て庵を崩す是
勝間の橋脚のあるべきに婚姻の義に通
ずるを思て唐崎の松を思ひ出て
叫び泣き悲しみよりて舟に乗て
出るあり入江に老たる者なる者
母親の出るあり其根ゆく源を
堀ひろめ流あるを見て月を映し
あるを慕ひ岩豊前の房之千の腑を
のこなるやさしい盃の梶を漕て
一日一日かぶされたる秋の変化有ん山廊中
はあるべきなる面影
はのふる
新しく青柳の枝新川上と川下に絡
ものうてあるさまなる新を志る新を慕

水無月のなかばの頃雨降ること
隆々たり 所の法師家々の塔を拂ひ
梅雨の如くしし 楽田村より海小川より雛を
多に捕きたる魚ハ悉く澤に溺死
きる人多に沈沈たり 水上乃花赤
きのハ男女神を つ拔 水上乃花赤
多ハ急流の側を なして世の業結を
くるうるとハ嗚呼 うる新とハ方丈記

流れ来る家を輝くこと 所々に桂と
家ハ壮大 所々の家をうるおい
ばかりなる 樵薪屋いくばく
或ハ四辺或ハ其地をつ 或ハ
主あるあり 人ハ行ゆ
もの 指を屈 ものもく 数
れ人 又 世事を
行よ 此朝 清り の法

白浪濤洶洶の嘆息を置き所の
[illegible]
[illegible]波[illegible]
[illegible]
明月の網[illegible]
[illegible]
[illegible]二更[illegible]
[illegible]湯田の入口

後序

大学ひ雪中先所々集二編ハ
振[illegible]の[illegible]人[illegible]
かこの筵より[illegible]記[illegible]
[illegible]の[illegible]を運ひ[illegible]
[illegible]白[illegible]検尋精詳して
[illegible]の[illegible]短[illegible]
[illegible]乃功を[illegible]

天つちふ撰集し回流の標的は
[illegible]書寫のまし机上の西臣[illegible]
志寧の[illegible]世[illegible]れ真を顧念し
[illegible]書譜の[illegible]ふして秘めりけれうてこの
[illegible]境の通志[illegible]ん[illegible]やと頻たて
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]寸あ士庚[illegible]いと
[illegible]の委[illegible]書[illegible]ふ[illegible]多[illegible]志[illegible]を結
[illegible]ば[illegible]東[illegible]ねて雪[illegible]述

東都書肆　本所三丁目　西村源六梓